

令和4年度印西市地域公共交通会議
第2回本塾第二小学校周辺地域対策分科会 会議録

開催日時 令和5年1月24日(火) 午前10時00分から午前10時40分
開催場所 印西市役所 3階 大会議室
出席者 織原拯委員、岩崎員幸委員(代理 大島様)、石井隆委員、板谷和也委員、
櫻井敦委員、富澤実委員
欠席者 木内聡委員、根本友也委員
事務局 交通政策課 本多課長、小林係長、秋本係長、桑原主査、堀内主査補
傍聴者 0名

次 第

- 1 開会
- 2 課長挨拶
- 3 議題

(1) スワン号の運行見直しに係るアンケート調査の実施について

- 4 閉会

会議録(要約)

1 開会

(事務局) ただいまから、令和4年度第2回本埜第二小学校周辺地域対策分科会を始めさせていただきます。

2 出欠の報告

(事務局) 欠席2名で、7名の出席となります。次第に従いまして会議を進行いたします。

(事務局) また、本日、傍聴及び公開で開催しておりまして、会議録作成のため、録音させていただいております。

3 課長挨拶

(事務局) 続きまして次第2、課長挨拶となります。

【 課 長 挨 拶 】

4 議題

(1) スワン号の運行見直しに係るアンケート調査の実施について

(事務局) それでは、資料に基づき事務局より、議題(1)「スワン号の運行見直しに係るアンケート調査の実施について」説明させていただきます。

【資料 事務局説明】

(事務局) それでは説明が終了しましたので、質問等ありましたら、よろしくお願いいたします。

(事務局) A委員の方から何かありましたらお願いいたします。

(A委員) このアンケート調査では自治会経由でアンケート票の配布をされるということですが、どのくらいの回収率を見込まれていますか。

(事務局) 50%程度を見込んで回収できるといいと考えております。

(A委員) もう1点、実際にスワン号に乗られている方はごく少数なので、今回のアンケートでは潜在的な利用者がどれぐらいいるか計る目的があると思うのですが、ご利用される可能性がある住民の人数の見込みについてはどう考えていますか。

(事務局) お答えいたします。

期待度という点では、やはり調査をしてみなければわからないという点等あるのですが、ご利用される可能性がある住民の人数の見込みについてはどう考えていますか。

意味では、1便を走らせるのに対し、お1人乗っていただく位のイメージというのは、やはり費用感的にも理想なのかなと思っております。そうすると現在、1日あたり1人前後行くか行かないかというのが実績で、6ページ目で報告させていただいているところですけど、この数字自体が、正直、数倍程度は、今いきなり変えて数倍になるかというのも勿論あるのですけれども、あると理想ではあるのかなというところでもあります。実際に利用範囲、そもそもスワン号の現状の運行の範囲として、できることをやってそれなりそのレベルの需要を取れるのかというのは、やはりいきなりは難しいところだと念頭に置いているところでございます。

(A委員) ありがとうございます。

おっしゃる通りで、聞いてみないとわからないことを聞いていますので、明快な回答するのは難しいと思います。私の印象としては、利用実績と市の負担額を見ていると、若干コストパフォーマンスが悪く感じます。これを改善するためのアンケートであると理解しています。定時定路線型を継続するかどうかということと、デマンドタイプをどう運行するかという2点の方策について、アンケート結果をもとに検討すべきだと思います。例えば、冒頭でおっしゃっていただいたように交通事業者間の調整みたいのところまで考慮に入れると、一番そういうことを考えなくて済むのがタクシーチケットの配布です。市が、こういう特別な交通手段を新しく運行しますとするのではなく、既存のタクシーを利用する際に使えるタクシーチケットを世帯当たり、或いは対象となる個人に向けて年間何枚、あるいは月に何枚という形で配布する方が、結果的に負担が軽くなる可能性もあり、しかもそれによって利便性も高まるかもしれないということです。そのため、実際にこういう交通を必要としている住民の人数をなるべく正確に計っておくというのはとても重要だと思いますので、今回地域全体を対象にアンケートを行うことには私は賛成です。是非しっかりおやりいただいて、回収率も70%、80%と高くなるとありがたいです。次の会議で結果を報告いただけますようお願いいたします。私からは以上です。

(事務局) ありがとうございました。

(C委員) A委員の意見と被るところがありますが、今までもアンケートを取ってきたと思いますが、その回答率はどのくらいですか。

(事務局) すみません。現在、手持ちに資料が無くアンケートにつきましては、導入当初にやらせていただいたもので、アンケートの回答率についての物がございませんので、少しお時間いただいて回答させてもらってもよろしいですか。すみません。

(C委員) はい。それで今までのアンケートの中で、どういう内容だったか私も忘れていますが、要は、無いよりもあった方がいいという人の回答が多いのではないかと。そんな記憶がある

のですが、だから、本当に真剣に答えてくれる人がいるのかどうか。その辺です。あとの内容の何ページかな。これ利用していると答えた人って言いますが、これ実際1日当たり1. 何人ということであると、ほぼ数名の方だから、業者の方で、どこで乗ってどこで降りたか把握できているのかなということ。これからのスワン号を始めるにあたっては、以前、本埜村の時にスタートして、なおかつ利用者がいないということで廃止され、また同じような内容でスタートしましたがけれども、本埜地区にしても印旛地区にしても、家に自家用車が無いと生活できないような地区なので、そういうのもあり利用者が殆ど無いのかという気もします。特殊な地域なのです。それで、どういう方向づけをしていくのか。デマンドで自宅から、例えば医療施設とかありますが、朝方は結構被るのではないか。そうすると、逆にまた利用者数が少なくなるのかな。この地区から、例えば日医大まで行くにしても結構距離があるし、これを幾らで。具体的なことが示されていないので幾らで設定しているのか。

(事務局) お幾らになるかというのは、この運行の見直しをかけた後か。どちらの制度のことについてか。

(C委員) 利用者が幾ら払ってこれを利用できるのかということ。

(事務局) 現状の運行の形態は300円でやっていますが、タクシー補助券だとしたらというお話ですか。

(C委員) いや違います。ただ単に、幾らで乗れるのか。

(事務局) フルデマンドでよろしいですか。フルデマンド、ドアツードアについて料金形態に関しましては、細かい調整を行ってないのですが、同額程度の現在の300円の方を据え置くような形で検討しております。

(C委員) それで、これが例えば、自宅から医療施設ということになりますと、例えば、この一番遠い地区からだと日医大まで3,000円位タクシーでかかるのが、300円で乗れるとなると凄いい好評だと思う。ただ、色々な問題が出てくるのでは。というのは、印旛村であれば平賀地区、山田地区はバス停まで1Km 2km以上ある場所も結構あります。そうすると今度は、そちらからの要望が出た場合にえられるのかという問題も出てくるのかな。とりあえず、今のところそのところです。それで、先ほどA委員の方からタクシー利用券という話が出ましたが、今、印西市の方で福祉部の方で身障者の補助と、あとは高齢者ですか。高齢者はどういう人たちを対象に。

(D委員) 介護認定を受けた方が対象で、要介護1からになります。

- (C委員) 確か運賃の半額、また1,000円が限度ということですよ。そうすると今度色々なバランス崩れてくるのかな。これが300円で病院まで行けますよと。だけど、身障者とか高齢者は1,000円です。1,000円は払うしかないですよというようなこともあるし、これから考えられるのは、運転免許返納者が増えてくる。結構、農家やっている人も高齢化しているので、そうした場合、広く利用してもらうには、補助金というか助成するような形がベストじゃないかとそんなふうに感じます。以上です。
- (事務局) アンケートについては、とりあえずこういう形でやらせていただいて。その後、制度を変える時に、もう一度議論いただいて、どういう形ですのかというのをもう一段階、こういう話し合いの場があった方がいいのかと思うのですが、そういう形ではよろしいでしょうか。アンケート自体は、ここで1回取らせていただきたいというのが事務局の考えです。
- (C委員) それは皆さんに諮ってください。
- (事務局) 制度の概要としてメニューのご提示といいますか、今後ありうる可能性として方向性の方をご提示させてもらって、市民の方、なかなか全ての交通モードにお詳しい方がそれぞれではないと思いますので、こういった方向性があるとご提示させてもらって考え方をお聞きして、勿論そちらのご意見はあくまで一旦参考とさせてもらって、その制度を全てやるよというのを担保するものでも無いですし、そこからまた一段階意見をということで、また次の会議等に諮って、それを進めていきたいと考えておるところでございます。
- (C委員) それでアンケートなのですけども、デマンド型とか書いても理解できない人が多いのではないかと。そういうのもある程度具体性を持ってこういうものですよ、こういう利用の仕方ですよというのを提示しないと、正確な意見も上がってこないのかなとそう思います。以上です。
- (A委員) 私もそう思いました。スワン号を運行していますということがわかる資料を入れないと、何のことを聞かれているかわからない人が沢山いそうな気がします。パンフレットを入れるか、或いは冒頭にスワン号の運行方法についての説明を入れていただいて、そのうえで実際にスワン号を使えるかどうか、使っているかどうかを改めて確認する形がいいのでは。
- (事務局) アンケートの内容につきましては、従前の制度としてある程度、定時定路線とデマンドというそれぞれがあるということをご認識いただいている前提になっている部分がございますので、フルデマンドとかタクシー利用補助券はこういうものですと最後の方に補足して、今後の考え方については、わかりやすく説明したところではあったのですが、現在、そもそもデマンドが何なのかというところを補足する意味では、現在のパンフレット等を一緒に添付させてもらって、それで配布するという形にしようかと思いました。ありがとうございます。

(事務局) それではB委員、一言いただければと思います。

(B委員) はい。私もさっきC委員が言われたように、無いよりはあった方がいいのかな。皆さん、当初はそうだったのではないかと思います。やはり、今までは足が丈夫だとか、車があるとかであまり切実に感じていない。合併した時は、こういうのがあった方がいいと、皆さん先読みするので、そういう形で出たのではないかなと思います。ここへ来てこういう見直しをすることはいいと思います。ただ、ドアツードアのデマンドでも、やはり色々商売でやられている業者さんがいますので、それこそ金額の面とか色々な面でバッティングするとこういうのは非常に問題があるのかなと思います。さっきA委員も言われたようにタクシー券は大分昔からあったと思うのですが、本塾時代にもあったのか、タクシー券はいいと思うのですが、金額が金額なので、その辺がどうなのか。今後は、先ほど仰っていたアンケートを取って、その後に具体的に色々なバッティングしない問題とか金額の問題とか色々なものを考慮して進めていっていただければいいなという考えです。

(事務局) ありがとうございます。その他ご質問等ございませんでしょうか。そうしましたら、今後のアンケート実施後のスケジュールについて、事務局からご説明いたします。

(事務局) アンケート調査の予定としましては、2月中旬位までアンケート調査を行いまして、アンケートの集計をさせていただきます。その後、3月位を目安にもう一度、こちらの分科会の方を開かせていただきまして、その集計結果等のご報告し、それを基にご意見、ご審議等いただきまして、今後の具体的な方向性について進めていくといった形で考えております。年間のスケジュールとの兼ね合いもあるのですが、3月位に交通会議の本会議も予定しておりまして、そちらの方に分科会で出たアンケート結果及びその審議内容等を本会議の方でまたご報告するといった形で考えております。実際、3月に方向性等がその場で決まるといった形になったとしても、4月1日から制度を変えるといったところまでは急なのでそこまでは考えておりません。準備期間等を持ちまして制度を変えるのであれば、準備ができて制度を変えるような流れで考えております。以上となります。

(事務局) それではスケジュール等についても、事務局との考えとしては、今説明した通りになりますが、その他スワン号について質問ございませんでしょうか。

(事務局) 先程出た質問については、今調べていますので、少々お待ちいただければと思います。

(事務局) すみません。C委員の方からご質問あったアンケート調査の回収率等につきまして、平成28年にスワン号を導入するためのアンケートを行った際の回収率としましては、アンケート全体に対して83%の回収ができております。この時は、本塾第二小学校周

辺の地域の住民の移動実態の把握を行うと共に、実際に公共交通の必要性や移動確保の検討の基礎資料とするということで、どういったものがあつた方がいいかというところを重点的にご希望を聞いたアンケートになります。その際は83.9%の回収率が取れている形になります。以上です。

(C委員) ありがとうございます。

(事務局) それでは今回のアンケートの実施につきまして、実施すること自体の賛否をいただきたいと思います。アンケートを実施することについて、ご賛成の方は挙手をお願いいたします。

【挙手全員】

(事務局) 挙手全員になります。

今回のアンケートの案を基に、若干、事務局で文字修正等をさせていただいたうえでアンケートを実施して参りたいと思います。

5 閉会

(事務局) それでは、これで本日の分科会は閉会となります。

報酬につきましては、後日お振り込みいたしますのでよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。